

中小企業の 人手不足への備え方



クニエ
ロジステイクスグループ
大室 翔史
マネージャー

「魅力的で柔軟に働ける環境」
昨今、日本社会全体として労働力不足・人手不足は深刻化している。2030年には3人に1人が65歳以上になるという予測もあり、労働者人口はますます減少に向かっている。厚生労働省によると、有業が就職先として選ばれる

効求人倍率は19年11月時点で1・57倍で売り手市場。業界首位の有名企業、勢いのあるベンチャーなどに応募は集まりやすい。一方、求職者が重視するポイントは自分のやりたい仕事ができる会社だという傾向も強い。本連載では、中小の物流企業を念頭に人手不足への対応を考えていく。

魅力的で柔軟に働ける環境
近年、企業ではIT技術を活用し、在宅勤務やサテライトオフィスなど、場所に縛られずに仕事ができる環境が構築されている。短時間勤務など、雇用・労働形態も多様化している。また、「仕事内容が魅力的であること」「柔軟な働き方ができること」は、中小企業が就職先として選ばれる

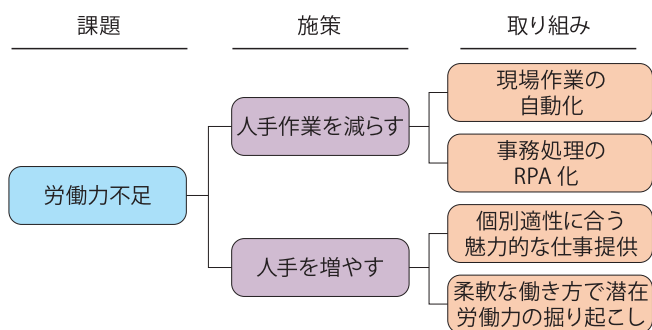
世の中の労働力の状況

重要なポイントとなる。「魅力的であること」は本人の適性に合った仕事なのか、その選択ができるかという観点もある。体力的な負担が少ない仕事であれば高齢者でも選択の範囲に入るし、外国人労働者は英語、または母国語で仕事ができるか否かも応募判断に入るだろう。

「柔軟な働き方」は、パートタイム・主婦・高齢者・外国人・障害者など、場所と時間などに制約がある潜在的な労働力の掘り起こしに重要な条件となる。

労働力不足に課題感が強い企業ほど取り組みに積極的で、勤務時間や職場環境の整備に力を入れている。新規採用だけでなく、既存の従業員の定着化のためにも労働環境整備は重要と言える。物流企業はどうか。ネット通販が

労働力不足に対する取り組み



拡大し倉庫内での作業工数、個人への配送数が著しく増加し、小口多頻度化が急速に進んだ。加えてB to Cのビジネスが増えたことにより、求められるサービスの高齢者でも選択の範囲に入るし、外国人労働者は英語、または母国語で仕事ができるか否かも応募判断に入るだろう。

「柔軟な働き方」は、パートタイム・主婦・高齢者・外国人・障害者など、場所と時間などに制約がある潜在的な労働力の掘り起こしに重要な条件となる。

労働力不足に課題感が強い企業ほど取り組みに積極的で、勤務時間や職場環境の整備に力を入れている。新規採用だけでなく、既存の従業員の定着化のためにも労働環境整備は重要と言える。物流企業はどうか。ネット通販が

作業の削減や省力化が進む

そんな中、物流企業で取り組まれている活動は大きく2つ、「人手の作業を減らすこと」「労働力を増やすこと」だ。人手の作業を減らすことは、作業の生産性を上げるために、作業自体の削減や効率を良くする活動、または自動化などの仕組により人手作業自体の代替となる「何か」で省人化を図ることだ。前者はゆるる改善の取り組みとして、これまであらゆる現場で行われてきたが、後者の自動化への取り組みは年々盛んになっている。

工場の自動化機器や事務作業のRPA（ロボットに業務自動化）が発展。自動的に施策を打っていく必要がある。

物流は、企業の約8割が中小企業という状況で、国の産業競争力強化と生活を支える重要な活動であり、官民共に継続的に施策を打っていく必要がある。

おおむろ・しょうじ 2010年米ナショナル大経営学修士、外資系3PLプロバイダーで複数の倉庫の立ち上げ運営管理を経験。後に日系コンサルティングファーム勤務を経て17年クニエ入社、現職。物流領域での業務改革やシステムコンサルティングを手掛ける。